



Rainbow letter

2016.3
Vol. 2

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

<<次回学術集会開催予定>>

第13回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会

日時：平成28年11月19日(土)・20日(日)

場所：KFC Hall & Rooms 国際ファッションセンター
(東京都墨田区)

大会長：鈴木利人

(順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学分野教授)

テーマ：周産期メンタルヘルスリテラシーの向上を目指して

現在、プログラム委員会を立ち上げプログラムの検討を進めております。プログラム詳細、一般演題募集、参加申込方法などは、決まり次第、会員メール配信とHP掲載でお知らせします。

<学会事務局便り>

ガイドライン作成について

昨年4月、日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会・日本周産期メンタルヘルス学会の3学会で「妊産婦メンタルヘルスに関する合同会議」を立ち上げ、検討を重ねてきました。それに関連して、日本周産期メンタルヘルス学会のガイドライン作成について、理事会で検討し2016年1月に臨時理事会で承認されましたのでご報告致します。

今後は、CQ (Clinical Question) 作成委員会、ガイドライン作成委員会および評価委員会を立ち上げ、日本産科婦人科学会および日本産婦人科医会の先生方にもご協力を仰ぎながら、ガイドラインの検討を重ねていきます。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

学会誌編集委員会から・会誌発行のお知らせ

本学会では、日本周産期メンタルヘルス学会会誌を発行しています。学会誌の発行は当面、年に1回秋～年末頃の総会に合わせて発行する予定です。

学会移行時の事業年度変更、規定や様式集の制定等に伴い、前号の発行から間があきましたが、次号学会誌の発行は、平成28年9月を予定として準備を進めております。次号会誌の論文投稿締切日は、平成28年4月15日(金)までとします。ご投稿いただきます際は、ホームページの投稿規定をご参照の上、締切日までにお送りください。

<イベント参加報告>

第19回日本精神保健・予防学会学術集会

平成27年12月12日～13日に宮城県仙台市にて、「結びつく力と結びつける力。予防と早期介入に向けた総力の結集—行政・教育・保健・医療・福祉・科学—」をテーマに、第19回日本精神保健・予防学会学術集会(学会HP: <http://www.jseip.jp/>)が開催されました。サイコーシス、発達障害への早期発見と早期介入に関する講演が行われ、シンポジウムも画像研究や若者への就労支援、災害後の予防早期介入など多岐に渡りました。

周産期メンタルヘルスに関連するシンポジウム「地域で支える母子と家族のメンタルヘルス」では、地域母子保健の前線として活動する中で見えてくる課題とその対策、助産師外来におけるメンタルヘルス支援、産科医療機関における妊娠中から支援が必要と思われる妊婦の把握や市町村等関係機関と連携について、精神科内周産期専門外来における地域母子保健との連携について、保健師、助産師、産科医、精神科医それぞれの先生方が発表されました。ディスカッションでは、一部の地域では母子保健、精神科、産科等関係機関との連携が積極的に行われていますが、産科医、助産師、保健師らにより早期発見された、何らかの心理的精神的支援を要する妊産婦に対し、どのように必要な介入、治療を提供していくのか、その体制や、精神科医がどのように関与していくかという体制が全国的には不十分であり、各地域で模索中であることが課題としてあげられました。他地域のモデルから、自分の地域の現状、今後の課題について考えさせられたシンポジウムでした。

第2回日本周産期精神保健研究会

平成27年11月14日～15日に埼玉県大宮にて「親子の物語が続くとき、私たちにできることは?—周産期から在宅医療までのかかわり—」をテーマに、第2回日本周産期精神保健研究会が開催されました。胎児診断、周産期精神保健の意義、小さく生まれた赤ちゃんの出産後から在宅移行までの医療・ケアなどの講演が行われ、シンポジウムではバースハピネス、また、一般演題においてメモリアルアカンファレンス、赤ちゃんと家族への心理支援など、多岐にわたる内容でした。

日本周産期精神保健研究会は、英語表記にすると当学会とかなり似ていますが、研究会員の構成は、小児科医(新生児科医含む)、看護師、心理士が当学会に比べると多い印象を受けていますし、今回参加させていただいた研究会の内容も産後の親子の絆に関するテーマが多かったのではないかと思います。赤ちゃんに何か問題が生じる可能性あるいは、生じている場合に、親子としての絆を深めることへ医療者がどのように関わり支援してすべきか、ということを考えて直す機会になりました。また、そのような親(家族)に妊娠期から継続的に関わる自分自身の役割を見つめ直す機会にもなりました。

((ニュースレター投稿記事を募集しています!))

情報関連委員会では、会員の皆様にとって有用な情報を、広くお知らせしていきます。当学会の活動だけでなく、他学会・研究会等に関する情報も含まれます。情報をお持ちの方は学会事務局(E-mail: mental-3@hac.mie-u.ac.jp)まで、ぜひご連絡ください。

*企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 事務局・情報関連委員会